

## バルツァ・ゴードル 2026 年度 事業計画

### 1. 法人理念

「Life is Beautiful」ともに手をつなぎ、こころ輝く人生を創造しよう。

#### 実践のために

- ご利用者だけでなく、職員も含めてどの人も「わたしらしく生きる」を目指します。
- 一施設完結型ではなく、他施設・組織と協力し合うことで「奈良の」「日本の」重症児者医療福祉を支えます。
- 様々な人と出会う中で、ケアする私たちも成長し、より良いケアへとつなげます。
- 尊厳を守り、「その人らしく最期まで生ききる」ことを支えます。

### 2. 事業方針

バルツァ・ゴードルは、利用者一人ひとりの最善の利益を追求し、多職種協働のもとで全人的で「わたしらしく生きる」ことを支えるケアを提供することを目指します。また、地域との連携を強化し、より開かれた施設としての役割を果たすため、以下の方向性に沿って事業を推進します。

#### 目指す方向性

- ① 呼吸器利用者の受け入れ強化
  - 在宅療養支援の一環として、ショートステイや（有期限）入所の受け入れを増加させる。
- ② チーム・バルツァによる利用者にとっての最善の利益の追求
  - 多職種協働を実践し、協働意思決定（Shared Decision Making）を推進。
  - 人生会議（ACP）を行い、生老病死を支える。
- ③ 地域との連携強化
  - 近隣病院や重症児者施設と連携し、地域全体で支える仕組みを構築。
  - ネットワーク作りを進め、地域住民にもバルツァ・ゴードルの役割を広く周知し、地域に開かれた施設とする。
- ④ 重症心身障害児者を「地域」で支え育てる
  - 「子育て」を「孤育て」にさせず、家族が孤立しないよう支援する。
  - つながりを作るため、多職種協働でのサポート体制を強化し、入所・ショートステイ・リハビリだけでなく支援者支援も行う。
  - バルツァから発信し、自分たちの言葉で伝え、多様性を認めるインクルーシブな社会を目指す。
- ⑤ ビジョン
  - 訪問診療や重症児看護ステーション、奈良県南部のショートステイの拡充。
  - 家族支援・きょうだい支援も行うことで、子どもホスピスとしての機能を担える施設となる。
  - 「どの人にも輝ける場所・みんなのパワースポット」としての移設の確立。

### 3. 2026 年度の目標と具体的な取り組み（各科の目標も含む）

インクルーシブな社会を具現化するためにも、重症児者を知ってもらうことからスタートとなる。一昨年度から出会いを大切に、「重症心身障害児者とは、重症心身障害児者施設とは」を知ってもらうために活動を行い、昨年度は「知ってもらう」から「自らの言葉で伝える」をテーマとして実践を行った。結果、近隣病院からのショート利用紹介の増加に加え、基幹病院との連携が比較的スムーズになっている。現時点では、まだ一般病院やいわゆる病院で働く医療者に広く周知されているとは言えないため、引き続き今年度も「自らの言葉で伝える」をテーマとして実践を行う。また今年度は新たに家族や地域の方との交流、他病院・他施設からの見学希望者の受け入れを深めていくことで、「知ってもらう」ことを強化する。

#### (1) 職員に対する協働意思決定の推進

- ・ 自分自身を知ること。(自分の価値観や死生観を知る。振り返る力をつける。)
- ・ 職員自らが自身の考えを持ち、考えを伝えられる人となる。
- ・ 職種を超えたディスカッションを行い、ご利用者の最善、幸せとは何かを模索。
- ・ 「正解を探す」のではなく、利用者にとって最適な選択をチームで考える文化を醸成。

#### (2) 医局

- ・ 地域基幹病院の医師と顔の見える関係性作り
- ・ 達障害外来開設の周知、実施
- ・ 小児神経科医師来園日の午後診で専門外来を実施し、貴重な小児神経専門医による診察を奈良の人に提供する。
- ・ 若手(非常勤)医師の育成と確保
- ・ 将来の常勤医や地域の病院で重症児者を抵抗なく診察できる医師の育成に協力する。
- ・ 施設見学希望医師の受け入れ
- ・ 重症心身障害児学会以外の学会での発表や講演により重症心身障害児者医療を知ってもらう
- ・ 院長一人体制の脱却を目指す
- ・ バルツアの今後の発展のためだけでなく、種々の医師が携わることで医療の質を担保する

#### (3) 看護療育部

- ・ 利用者が安心・安全に過ごせるよう、病まない体づくりに重点を置く。
- ・ 質の高いケアの提供：安全と人権を損と油脂、専門性を発揮するために看護管理研修や研修会への参加。
- ・ 組織体制の充実：ワークライフバランスの充実と応援機能の強化、入職時教育やキャリアラダーに沿った人材育成を推進する。
- ・ 多職種・地域連携：定期的なコミュニケーションの場を持ち、地域との連携強化を目指す。
- ・ 数値目標：マニュアル遵守率 80%以上、超過勤務 10 時間以下、職務満足度 10%アップを掲げる。

#### (4) 地域連携

- ・ 地域の役割の追求：自施設が地域で果たすべき役割を再考し、地域連携に向けた具体的な行動を推進する。
- ・ 生活場の橋渡し：入所者やショートステイ利用者が心地よく過ごせるよう、院内外を繋ぐ調整役としての役割を果たす。
- ・ 受け入れ態勢の検討：地域の高いニーズに応えるため、ショートステイの受け入れ継続や体制について検討を重ねる。

#### (5) 事務部

- ・ 小集団経営の形成：事務を 3 チームに分け、各部門で事故完結できるスキルと責任感を醸成する。
- ・ 円滑な業務遂行：施設全体のプロジェクト時は、主担当業務を行いながらも事務所全体で一丸となる体制を作る。
- ・ 人材育成：経験の浅い職員に対し、法人理念に即した教育を行い、役割の確認とコミュニケーション強化を図る。
- ・ スピーディーな収支分析：会計ソフトへの入力を迅速に行い、直近の収支や予算の執行状況を把握する。
- ・ 安定運営の確保：収支状況を幹部が把握し、資金投入先を共有することで施設の安定運営に努める。

#### (6) リハビリテーション科

- ・ 利用者が安心・安全に過ごせるよう、病まない体づくりに重点を置く。
- ・ 多職種連携と QOL の向上：医師や看護師等と協働し、食事や行事を通じたケアで「自分らしく生きる」を支援する。
- ・ 専門性の追求：呼吸器リハ講習会等への参加や議論を深め、利用者の最善の利益を追求する。

- ・ 活動拡大と地域連携：ショートステイのリハ実施拡大や、支援学校との情報共有による連携強化を図る。
- ・ 人材育成：新入職員3名の増員に伴い、内外部研修参加し、伝達共有することと、実習生受け入れに向けた指導者講習の受講を推進する。

#### (7) 薬剤科

- ・ 調剤・与薬の安全徹底：電子カルテ等システムの適正利用と、与薬時のダブルチェックを徹底し誤薬を防止する。
- ・ 在庫管理の適正化：卸業者との連携で出荷調整品を確保しつつ、月1回の期限確認で廃棄やデッドストックを削減する。
- ・ 後発医薬品の推進：販売から5年以上経過し安全性が確認された後発品の使用を推進する。
- ・ 多職種連携と研鑽：観戦レポートの作成や各委員会への参加、院外勉強会を通じた薬剤師の専門性の向上を図る。

#### (8) 栄養科

- ・ 食の質の向上:季節感のある献立提供や利用者の能力に応じた形態調整を行い、「楽しみ」としての食事を追求する。
- ・ 安全・衛生管理:アレルギー情報の共有や厨房の定期清掃、適切な加熱・消毒を徹底し安全な食事を提供。
- ・ 栄養管理と連携:年2回の振り返りによる栄養管理計画の見直しや、褥瘡対策などの多職種連携を強化する。
- ・ 体制整備:業務の円滑な引継ぎを進め、研修参加を通じて最新の知識獲得と人材の育成を図る。

### 4. 期待される成果

- ・ 呼吸器使用者の受け入れ体制が整い、在宅療養支援の選択肢が拡大する。
- ・ チーム・バルツァの多職種協働により、より質の高いケアが提供される。
- ・ 地域との連携が強化され、施設が地域社会の一部として機能する。
- ・ 利用者が安心してその人らしい生活を送ることができる環境が整う。